

チャレンジ！！オープンガバナンス 2017 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	- (事務局用)	オープンデータと自転車をはじめとした観光資源の融合による持続可能な観光交通を目指して	京都府京都市
アイデア名 (注1) (公開)	「観光客の分散化」に向けたおすすめの観光ルートの提案		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2017 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	京大チーム	
チーム属性 (公開)	■ 2. 学生によるチーム	
メンバー数 (公開)	5名	
代表者情報	氏名 (公開)	飯田智基
メンバー情報	氏名 (公開)	河盛亮介、山口直人、丸田董平 加藤裕樹

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2017_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2017 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2017@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)

5. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、や知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの論拠、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

（1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれが、何を、どこで、いつ、どのように、する公共サービス（活動）なのか、これらの要素を入れて**内容そのもの**をわかりやすく示してください。**1 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

私たちは、外国人観光客に京都の歴史的価値の高い重要文化財や国宝をよりたくさん知ってもらい訪れてもらい、満足度を高めることでリピートしてもらえるように、「外国人観光客に歴史的価値のあるスポットを効率良く探索できるおすすめ観光ルート」を紹介し、同時に「観光人口を管理することで観光客の分散化を図り、満足度を向上させる仕組み」をデザインします。

現状

- ・ 観光客(常連)：訪れる場所がたくさんあるが、有名な場所は行き尽くし、あまり知られていない観光スポットを紹介してほしい。
- ・ 観光客(外国人)：有名な場所はもちろん行きたいが、それだけでなく他にも混雑していない穴場のようなスポットがあれば帰国後、知り合いにも紹介できる。
また、京都の観光ルートを紹介してくれればそれに従って複数の観光地を訪れることができる。
- ・ 行政：「観光客の分散化」を実現させることで観光客の満足度を向上させたい。



観光客も行政側も、「観光客の分散化」

することを求めている！



観光客が宿泊施設を予約する時に、**宿泊施設が観光客に観光ルートの提案**を行うことで、観光客に、旅行先でのルートを決定する煩わしさを解消し、観光客を分散化させ、混雑を緩和させることが同時にできる！

(2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアなのかの理由付け）について、それをサポートするデータ（統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの定性データ）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつ、2 ページ以内でご記入ください。データ類は出所を明らかにしてください。

【論拠 1】

河原町等の観光スポットを歩いていると、外国人観光客にしばしば遭遇する。



【データ類 1】

京都に宿泊する観光客

H26→H27→H28：約 1340 万人→約 1360 万人→1415 万人

外国人 180 万人→約 315 万人→約 320 万人

（京都市 産業観光局 観光 MICE 推進室 京都観光総合調査（平成 27,28 年）より）

数年前から外国人観光客が増加し現在ではその数は安定していることがデータから分かる。



観光の促進のためのターゲットを外国人観光客にする理由！

【論拠 2】

- 京都外に在住している学生の意見として、京都には訪れるべき歴史的価値のあるスポットがたくさんあるように思う。

【データ類 2】

観光の目的	
寺院・神社・名所・旧跡	約 80%
桜・紅葉などの自然	約 45%
飲食	約 20%
買物	約 20%
博物館・美術館	約 20%

京都市 産業観光局 観光 MICE 推進室 京都観光総合調査（平成 27 年）より

ホテルが宿泊施設情報提供(H29:約 2000 件)

京都府内の国宝・重要文化財(H29:約 2900 件)

碑(H29:約 1500 件)

保健福祉局 医療衛生推進室 医務衛生課 旅館業法に基づく許可施設の一覧(平成 29 年 4 月 30 日)

文化庁 国指定文化財等データベース（平成 29 年）

文化市民局 歴史資料館 いしぶみリスト（平成 29 年）より

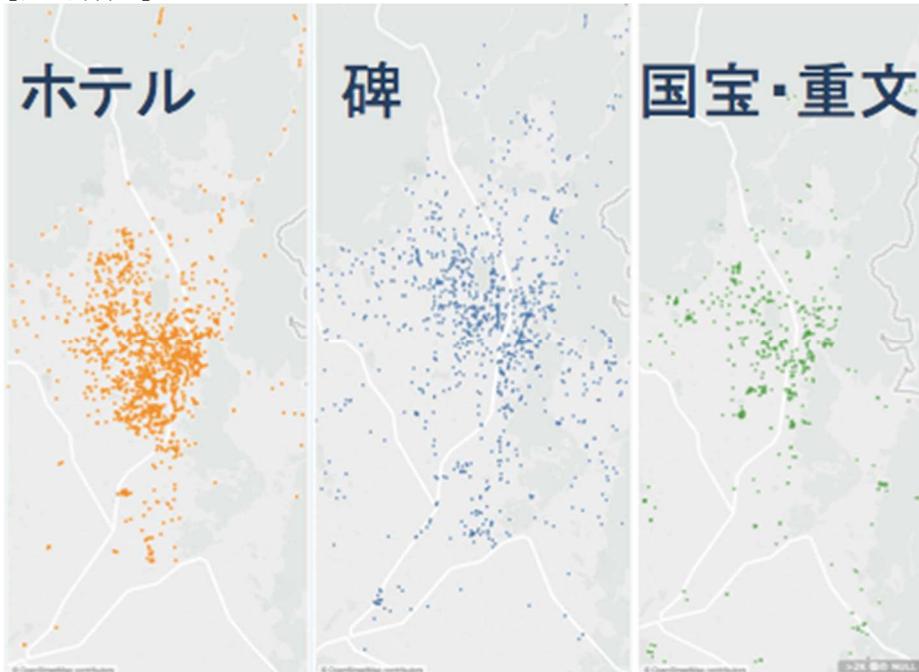


寺院や神社などの歴史的価値のあるスポットに外国人は興味を持っていることや、京都の国宝や重要文化財は非常に多いことが分かる。

【論拠 3】

- 京都在住の中国人留学生が「京都にあるアクセスの良い観光地は少ない気がする」と言っていた。

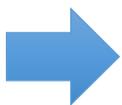
【データ類 3】



保健福祉局 医療衛生推進室 医務衛生課 旅館業法に基づく許可施設の一覧(平成 29 年 4 月 30 日)
文化庁 国指定文化財等データベース (平成 29 年)
文化市民局 歴史資料館 いしづみリスト (平成 29 年)
を Tableau により作成。

図より国宝や重要文化財が集中している箇所はあまりなく、

各地に点在していることが分かる。



観光客はあらかじめ訪れる場所を決めておかないと、現地についてから
思いつきで別の重要文化財を見たいと思っても移動の時間がかかって
煩わしいと感じるのではないか。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大きな規模とその現実的な調達方法（制約がある場合にはその解決策を含む）、アイデアの**実現にいたるプロセスとマイルストーン**等、アイデア実現までの大きな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

[流れ]

観光客が旅行計画を立てるときする事

- ・ホテルを決める
- ・目的地を決める

京都に着いてから観光ルートを推薦しても、すでにプランを決めていることが多い。
観光客が京都に旅行を検討するときにリーチし、ルートの提案することが効果的！

I. 自宅～ホテル

1. 観光地検索とホテル予約 (web サイト)
- 予約状況から混雑状況を推定し表示させる。
ルート情報案内 (スマホ用)
2. チェックイン

① 自宅～ホテル



流れ

1. 観光地検索とホテル予約 (web サイト)
 - 足利義満邸に決定
 - ルート情報案内(スマホ用)
2. チェックイン
 - パンフレット(スタンプラリー付き)の案内(紙)

「全部等に行きたいね」
「足利義満邸だって、このホテルはしょゆか」



「こちらが足利義満邸のパンフレットです」

II. ホテル～観光

1. ホテル出発
ルート情報確認 (スマホ・パンフレット)
2. 観光地巡り
スマホで写真撮影
ルートにない観光地も訪れることもある



流れ

1. ホテル出発
 - ルート情報確認 (スマホ・パンフレット)
2. 観光地巡り
 - スマホで写真撮影
 - スタンプ集め
 - ルートにない観光地も

「写真をホテルに送っておこう」



「そのスイーツおいしそう」
「古いレコード屋もある」

III. ホテル～帰宅

1. チェックアウト
帰宅
SNS 更新
ルート評価の投稿

③ ホテル～自宅



流れ

1. チェックアウト
 - スタンプラリー景品
2. 帰宅
 - SNS更新
 - ルート評価の投稿

「景品のスタンプです」「アルハムは後日送ります」



「楽しかったね」 「面白いルートだったわ」
「いいね！もたくさん」 「スイーツも美味しかった」

IV. データのフィードバック

1. 新ルート開発
 - 利用者の評価を反映



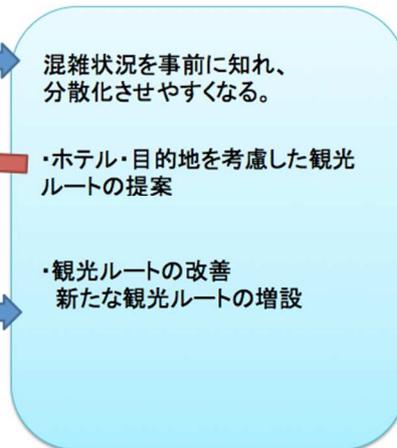
流れ

1. 新ルート開発
 - 利用者の評価を反映

観光客



ホテル・データ管理システム



アイデアを実現する主体

- ・ オープンデータの提供
→京都市(宿泊施設情報、京都市の観光客数)
- ・ 観光ルートの提案
→各宿泊施設

このシステムによる
観光客とのインタラクション

アイデアの実現に必要な資源

- ・ 予約情報を集積するシステム

1. 定期配信型のシステムでデータを得る



2. 自分の住んでいる地域や、目的の地域にフォーカス

端末 app なら google map 感覚で使えるといいし、紙媒体なら、欲しい見出しをカスタマイズして注文できる



3. 観光客の動向を把握しながら、上手に暮らすことができる。

付加的な価値として、観光客の混雑状況のデータを市民に定期配信できるシステムを導入すると、観光客だけでなく京都市民も混雑に巻き込まれることなく、日常生活を送ることができる。